



著者プロフィール

西村和子（にしむら・かずこ）

昭和23年、横浜に生まる。

昭和41年、「慶大俳句」に入会、清崎敏郎に師事。

平成8年、行方克巳と「知音」創刊。

句集『夏帽子』（第7回俳人協会新人賞）『窓』『かりそめならず』

著作『虚子の京都』（第19回俳人協会評論賞）『添削で俳句入門』『名句鑑賞読本』茜の巻・藍の巻（行方克巳と共著）他。

〈句集『知音』より転載〉〈2006年5月27日時点〉

『知音』（自選十五句）

西村 和子

紙風船息吹き入れてかへしやる
蓮見舟声をひそめて乗り合はず
黒谷の松吹く雪となりけり
くべ足して暗みたりけり花篝
もの言はぬもののみ残の原爆忌
創刊の言をこころに初句会
灯点せば口つぐみたるひゝなかな
五月幟男の子は家をはなれゆけ
緑蔭に昨日別れしごとく会ふ
どうでもいいやうに踊りて手練なる
初桜立ち出でて子はふり向かず
暗きより来たり暗きへ踊りゆく
見るうちに祭の橋となりけり
継ぐといふことを尊び初蹴鞠
水音と虫の音と我が知音と